平和大通り

平和大通りは広島平和記念公園を横切り、東端の京橋川と西端の太田川放水路までの約 4 キロメートルを結びます。この街路樹が立ち並ぶ幅広い大通りは、平和記念公園同様に、広島再生の象徴となっています。この通りではもともと、第 2 次世界大戦中に、火災が広島中に広がるのを未然に防ぐために、家屋は取り壊され、木は伐採されました。戦後、広島城と平和記念公園とともに、広島再建計画において重要な位置付けを与えられました。1951 年には、公式に平和大通りと名付けられました。

現在通り沿いに立ち並ぶ街路樹を植えることになった際、広島は財政難に直面していました。そこで地元政府は世界中の都市に、平和大通りの景観整備に寄付するよう要請しました。1957 年から 1958 年にかけて、約 9,500 本の木やその他の植物が寄贈されました。その後も寄贈が続きました。木の種類に関しては何の要件も指定もなかったため、各都市からはそれぞれ送ることができた種や植物が寄せられました。その結果、平和大通りでは現在、約 1 ヘクタールに渡って驚くほど多様な植物が植わっています。この通りとそのエピソードは、広島再建に向けた多くの人の努力の証左となっています。